

かすみ がわ
霞川

所在地・・・埼玉県入間市 他

延長・・・15.76km(うち埼玉県区間10.26km)

実施主体・・・埼玉県飯能県土整備事務所

問合せ先・・・【住所】埼玉県飯能市双柳75
【TEL】042-973-2281

霞川

対象地の概要・・・霞川においては、既設の河川横断施設(落差工)が魚類の遡上等を阻害している。このため、生態系に配慮した多自然川づくりとして、魚類等の生物や周辺環境に配慮した魚道を落差工に設置し、霞川の環境を改善している。

事業への取組みのきっかけ

霞川はもとの河床勾配が1/100程度と急であるため、多くの段差(落差工)を設けている。そのため、魚類の遡上や降下環境に悪影響を及ぼしてきた。また、地元NPO等からの整備要望も寄せられていた。このため、河川の連続性を確保し、魚のすみやすい環境を整えるため、魚道の整備を行った。

整備の概要

整備実施期間・・・平成20年～平成23年度(2008年～2011年度)

①「魚類に配慮した空間形成」に向けた整備手法

Step1 調査(施工箇所の決定)

河川を横断している多数の落差工のうち、魚類等の遡上を阻害している落差が大きい9箇所を選定した。

Step2 設計

生息している魚類の遊泳特性や魚道設置位置、魚道内流速等を考慮し、霞川に適した魚道形式(ハーフコーン型*)を9箇所選定した。また、治水上也影響がでないよう考慮した。

Step3 工事

設計時に検討した事項が適切に反映できるよう、施工業者との打ち合わせを密に行った。

② 整備時の協働者との関わり

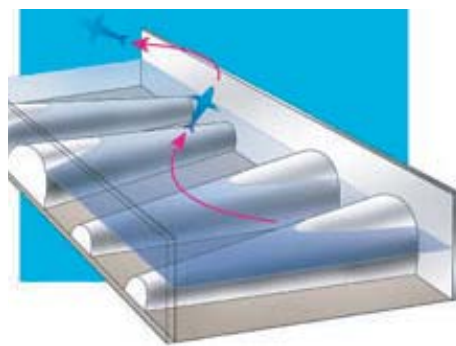
—

③ 整備時の留意点

—



霞川の落差工



霞川に適した魚道形式(ハーフコーン型)の模式図



霞川に適した魚道形式(ハーフコーン型)

維持管理の概要

④「魚類に配慮した空間形成」に向けた維持管理内容

—

⑤ 維持管理時の協働者との関わり ⇒霞川をきれいにする会、NPO法人バーブレスフック

魚道整備後の効果を検証するため、個体の種類、数等について、協働者が今後年2回実地調査する予定である。平成22年(2010年)8月の調査でハゼ科のトウヨシノボリが、調査開始後初めて霞川で確認された。

⑥ 維持管理時の留意点

—



トウヨシノボリ

事業効果

- 設置後に協働者であるNPO法人が実施した調査では、魚道内を遊泳する姿を観察することができた。
- さらに、同調査で、霞川が合流する入間川には生息していたが、霞川では確認ができなかった魚が、調査開始以降、遡上していることも確認ができた。

備考

【用語説明】

※1ハーフコーン型・・・越流部隔壁が円錐形コンクリートを半分に切った形をしており、丸みを帯びているので魚が傷つかず、かつ、傾斜していることにより水位の変動に対応できるという、魚に優しい特徴をもっている。

今後の展望

平成23年(2011年)までに施工を行う9箇所の落差工の他にも、魚類の遡上等を妨げている落差工が存在しており、平成24年(2012年)以降については、これまでに設置した魚道の効果を踏まえ、それら支障となっている箇所について魚道の設置を検討する予定である。